



学校教育目標

校訓

刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、
たくましく自己実現していく生徒の育成～

自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第35号

令和4年3月16日発行 文責：副校長 久我 和廣

卒業証書授与式での校長式辞から

校庭の木々の蕾もほころび始め、春の息吹が感じられる今日の佳き日。保護者の皆様方多数の御臨席を賜り、東金市立東金中学校 第51回卒業証書授与式をここに挙行できますことは、誠に感激に堪えないところでございます。心より感謝申し上げます。



9か年間の義務教育を終えて新たな門出に立つ189名の卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんが希望に胸をふくらませ中学校へ入学したのは令和の始まりを控えた平成31年4月でした。以来「かけがえのない自己の人生に目を開き、たくましく自己実現していく生徒」を目指し、様々な活動をとおして精進し、一人一人がたくましく成長しました。

また、昨年度は臨時休校があり、今年度についても度重なる学校行事の変更など、コロナ禍にありながら変わりゆく日常の変化に対応しつつ、一つ一つのことに精一杯取り組み、ました。特に令和3年度は、創立50周年を迎えた東金中学校の最上級生として学校生活全般にわたりリーダーとして活躍し、全学年揃っての運動会は無観客でありましたが、熱気に溢れました。また、合唱コンクールにおいては下級生に範を示し、東金中学校の良き伝統と校風に磨きをかけてくれましたことについても、敬意と感謝の意を表したいと思います。

卒業生の皆さん、今日のこの日は皆さんにとって本校を卒業する日であると同時に、高校や職業生活に向かって新たな旅立ちをする日でもあります。それぞれ自分の力と意思で勝ち取った、それぞれの道を進んでいきます。別れにあたり、君たちの今後の人生に参考になればと思い、はなむけの言葉を贈ります。

それは「心の四季」という言葉です。四季とは、四つの季節のことですが、春の心・夏の心・秋の心・冬の心を持って欲しいということです。「春、夏、秋、冬」のそれぞれの季節を表す言葉が持つイメージやそれが表す心をもってほしいと願うのです。

まず、「春の心」についてお話しします。春という言葉は、草木が芽をふく、「張る」から生まれた言葉だそうです。春風、春先、春めく、陽春、春日（はるび）などの言葉がありますが、これらの言葉からは、おだやかであつとりとした感じ、のどかでのんびりとした感じ、暖かで心がゆったりとする感じを受けます。そこで、人と接する時には、穏やかに、心豊かに、そして、暖かな春の心で対応してほしいものです。そこから、思いやりの心、他人を大切にする心、相手の立場になって考える心が生まれてきます。そこで、「人と接する時には、春の心で」という言葉を最初に贈ります。

次に「夏の心」です。夏という言葉は、若いとか新鮮な意味を表すウラルアルタイ諸語からきた言葉だと言われています。キラキラと容赦なく照りつける夏の太陽、夏は若さを発散する最適な場面（諸君も暑さに負けず部活動に励んでくれましたが）でもあります。盛夏、炎夏、炎熱などという言葉がありますが、夏はまさに万物が燃えるイメージではないでしょうか。

それでは、燃える心とはどのような時に発揮されるのでしょうか。学習、運動、遊びなど、物ごとに挑戦する時こそ、夏の心、燃える心でぶつかってほしいものです。そこで、「物ごとに挑戦するときは、夏の心で」という言葉を2番目に贈ります。

3番目は「秋の心」です。秋という言葉は、秋の空がアキラカ（清明）と言うところから来た言葉だと言われています。秋空、秋の色、秋高し、秋澄む、涼秋、清秋といった言葉などが思い浮かびますが、これらの言葉からは、澄み切った、澄み渡った、濁り気のない感じを受けます。それでは、どのような時に、澄み切った、濁り気のない心が必要なのでしょうか。人の話を聞く時、物ごとを考える時、判断を求められたり判断したりするときなどには、邪心を捨て、先入観や邪心にとらわれることのない、澄み切った素直な心で対処してほしいものです。そこで、「考えたり判断を下したりする時には、秋の心で」という言葉を3番目に贈ります。

最後に「冬の心」です。冬という言葉からは、寒さが猛威をふるい、すべてのものが首をすくめ、じっと春の訪れを心待ちにする厳しさが感じられます。また、冬籠もり、冬眠、厳冬という言葉がありますが、いずれも、冬の厳しさ、冬の過酷さを表している言葉であります。

それでは、厳しさはどんなときに求められるのでしょうか。厳しさを求めるのは、自分自身に対してであってほしいと思います。私を含めてですが、人間はとかく他人に対しては厳しく、自分にはついつい甘くなりがちですので、自戒したいものです。そこで最後に、「自分を責める時には、自分の行動を見つめる時には、そして、自分自身を振り返る時には、冬の心で」という言葉を贈ります。

以上皆さんが今後の人生を歩んでいくに際して、参考になれば、「人と接する時には暖かな春の心で」、「物ごとに挑戦する時には、燃えるような夏の心で」、「考え、判断を下したりする時には、澄み切った秋の心で」、「自分を責める時には、自分自身を振り返る時には、厳しい冬の心で」と言う「心の四季」を別れに際してはなむけの言葉とします。

保護者の皆さま、本日は誠にありがとうございます。只今卒業証書を手にした189名のお子様方の姿をご覧になり感無量のことと存じます。自我の芽生えてきた中学校での3年間は、生活面で、学習面であるいは将来に向けての進路のことで期待やら心配りやらで、さらにこの2年間はコロナ禍にあることも加わり、気の休まることは少なかったことと思います。しかし健やかな成長を願い、温かく、時には厳しさのあるご慈愛により、九か年間の義務教育を終えて今日から新しい道に向けてスタートする立派な、たくましいお子様に成長いたしました。改めて今日までの御苦労に感謝し、お祝い申し上げます。

次に4月から最上級生、また中堅学年になる（教室で画面に向かい参加している）在校生諸君にお願いいたします。

皆さんは卒業生の残してくれた良き伝統と校風を立派に受け継ぎ、更に発展させ磨きあげる責任があります。卒業生を手本とし、東金中学校をみんなが更に勉強に運動に取り組める学校にしていって欲しいと思います。

結びになりますが、卒業生の皆さんの今後のご活躍とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

令和4年3月11日

東金市立東金中学校長 今井 清仁